

## 小中一貫教育

校長 野村 健一郎

新年度が始まり2か月が過ぎ、生徒は学校生活のあらゆる場面で頑張っています。単元テスト、中間テスト、校内模試を終えて、学習だけでなく、行事や部活動などにも一生懸命取り組んでいます。生徒玄関には、6月6日からの修学旅行で3年生が沖縄平和祈念資料館に奉納する千羽鶴が掲示されています。今年度は全校生徒が協力して鶴を折りました。みんなの思いが、五中から世界に届いてほしいと思います。

さて、今年度、五中校区では、箕面市の施策として、他の中学校区に先駆けて、新たな体制のもと小中一貫教育に取り組んでいくこととなりました。すでに箕面市では、とどろみの森学園と彩都の丘学園が施設一体型の小中一貫校として開校しています。これら2校での取り組みを踏まえて、市内の各中学校区で小中の教職員が、情報交換や交流を行いながら、小中の連携を意識した教育に取り組んできました。五中校区でも、年に数回、校区の小中学校の教職員が合同で研修を行ってきました。また、子どもたちについても、小学6年生対象の中学校体験入学を行ったり、児童会・生徒会が協力して、朝のあいさつ運動やいじめをなくすための取り組みを行ったりしてきました。しかし、学校間の物理的な距離や、校種の違いによる教職員の意識の違いなど、少なからず課題もありました。今回の新たな施策では五中校区に「小中一貫教育推進コーディネーター」(五中 芝先生)が配置され、推進担当教員として小中の連携を迅速かつ確実なものにできるよう調整して、一貫教育を力強く推し進めて行くこととなりました。先日も校区の教職員全体でミーティングを行い、今年度から進めていく小中一貫教育についての概要を確認しました。具体的にはこれまでの校区情報交流会、合同研究会・研修会などの取り組みを深化させるとともに、小中9年間を見通した指導計画を作成し、中学校教諭の小学校への乗り入れ授業を実施することなどが計画されています。今年度の五中校区の教職員研修では、中学校での進路指導についての考え方と実際の入試制度やプロセスなどを五中の進路指導主事が説明をした上で、小中の教職員がそれぞれの立場から子どもの進路実現について考えていくということを予定しています。また、この4月から乗り入れ授業を担当しています。五中の社会科の河俣先生が週に1日ずつ中小と萱野小で6年生を中心に授業を行っています。その成果を踏まえて、校区全体の研究授業でも、五中の何人かの教員が小学生に授業を行うことになり、そのための準備を小学校の教員と共同で進めることにしています。これらの取り組みを通して、校区全体の教職員の教育力を高め、子どもたちの成長につなげていきたいと考えています。

先日、ある会合で、中小学校の校長先生と話す機会がありました。乗り入れ授業担当の河俣先生が、その日、中小での授業がないにもかかわらず、6年生の修学旅行の見送りに来てくれて、子どもたちも喜んでいたということを楽しそうに話されていました。河俣先生のように、小学校、中学校の区別なく校区の子どもたちに思い馳せる教職員が生まれ、また、その思いを子どもたちが受け止めることで、子どもたちは、小中の隔てなく学校と教職員に対して安心感を持てるようになります。また、校区の教職員が子どもたちへの思いを共有することは、小中の教職員にとっても信頼関係の構築や、子どもの理解を深めていくことにつながって行きます。今回の施策は、市から発信されたものではありませんが、小中一貫教育の推進が校区全体の子どもの成長をより豊かで確かなものにしていくと捉え、長期的な視野に立って、着実に実行して行きたいと思います。

しかしながら、学校の教職員には異動があります。そのため、一人ひとりの子どもについて、小学校

1年生から中学3年生までの9年間の成長の過程を最初から最後まで見届けることはできません。子どもたち一人ひとりの成長を継続して見届けていただくことについては、保護者や地域の皆様のご協力を仰がねばなりません。検証や改善など小中一貫教育の推進と発展のためには、みなさまのご理解とお力添えが不可欠となります。そうした点も含めて、今後とも五中ならびに五中校区全体の教育活動にさらなるご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。